

シチズンサイエンスの実例とこれからの可能性

ー日本心理学会におけるシチズン・サイエンスプロジェクトを通じて

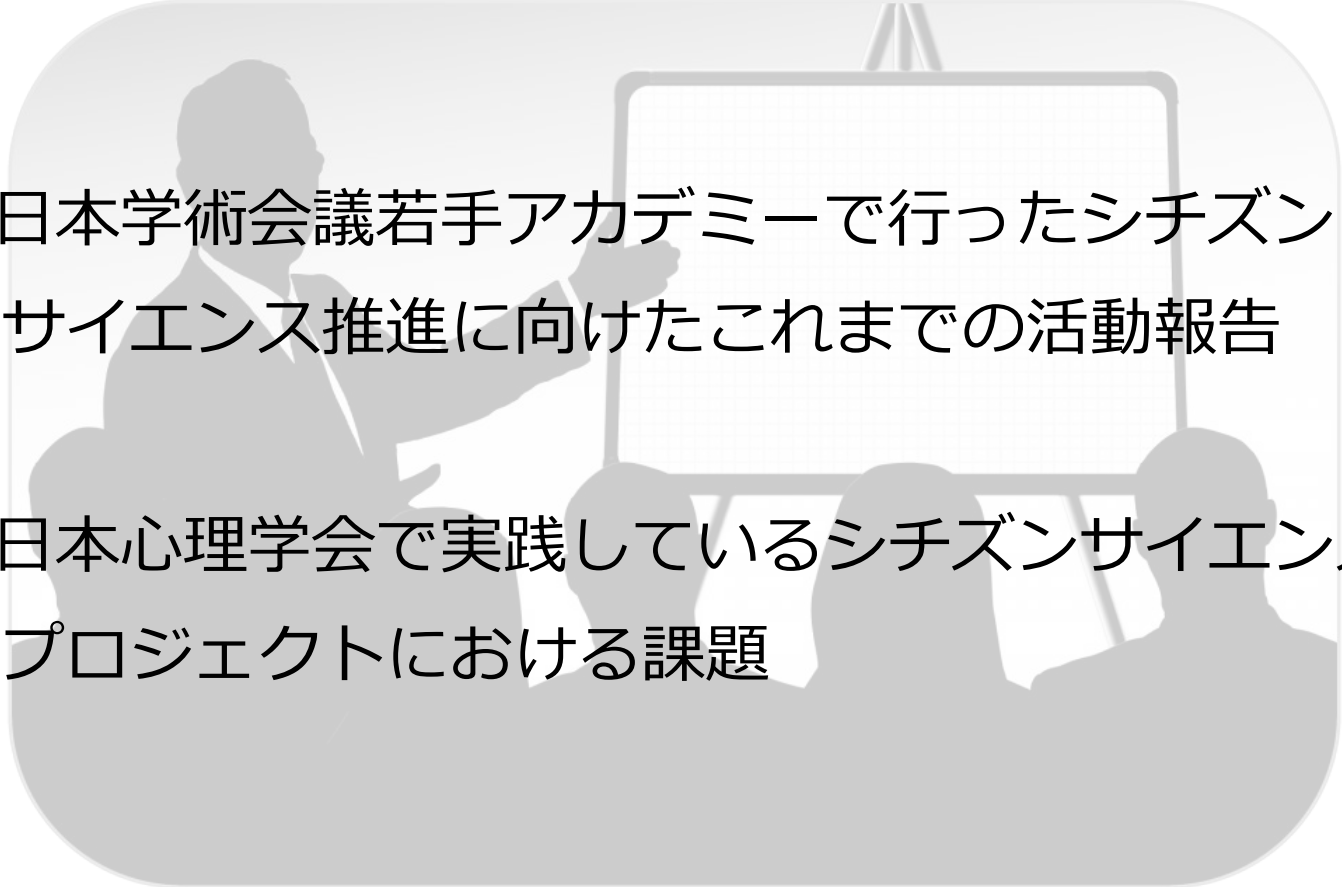
高瀬堅吉

日本学術会議若手アカデミー

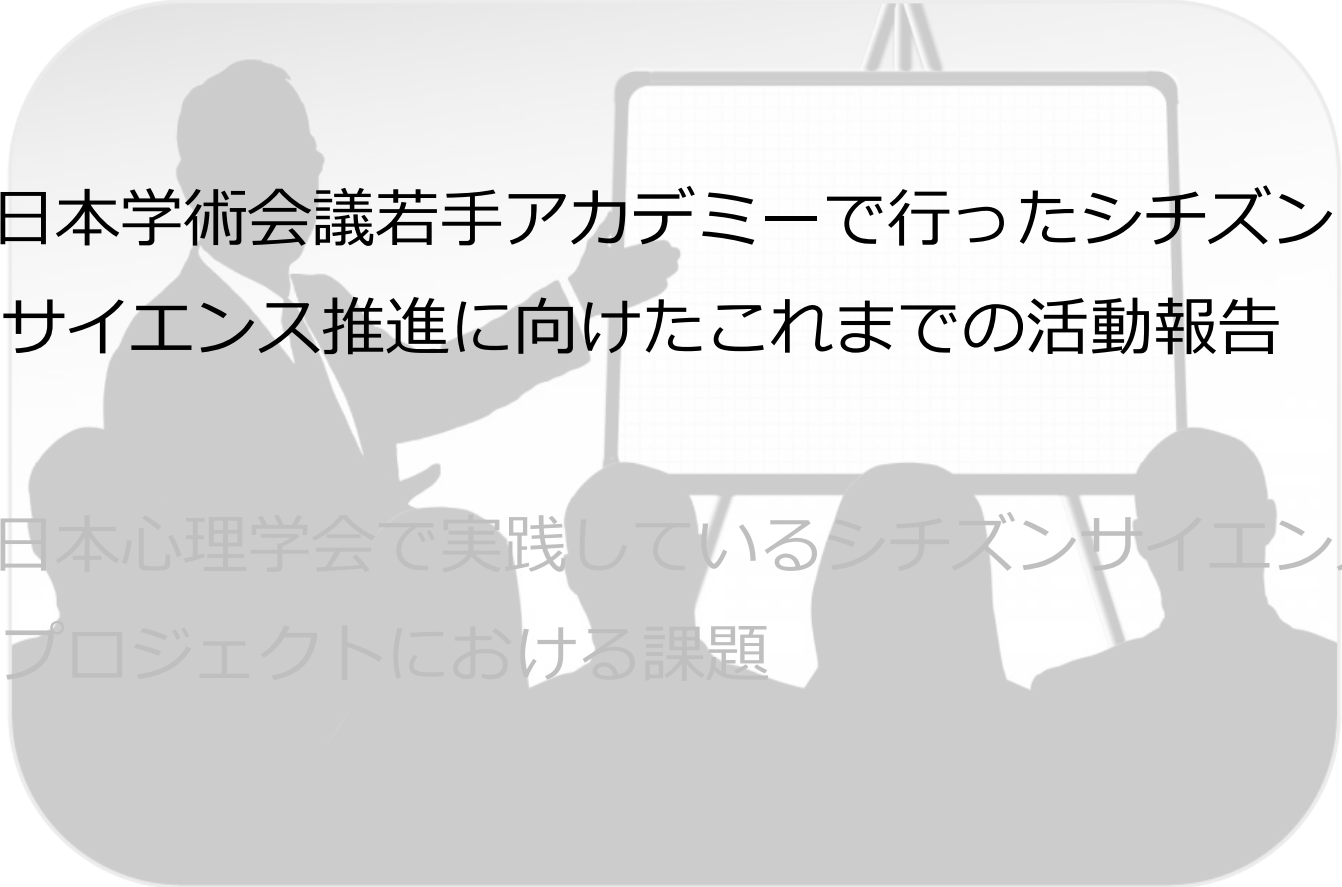
日本心理学会

自治医科大学医学研究科

Today's
topics

- 
- ◆ 日本学術会議若手アカデミーで行ったシチズンサイエンス推進に向けたこれまでの活動報告
 - ◆ 日本心理学会で実践しているシチズンサイエンスプロジェクトにおける課題

Today's
topics

- 
- ◆ 日本学術会議若手アカデミーで行ったシチズンサイエンス推進に向けたこれまでの活動報告
 - ◆ 日本心理学会で実践しているシチズンサイエンスプロジェクトにおける課題

シチズンサイエンスの紹介／シチズンサイエンスが馴染む学術分野を検討

若手アカデミーが考えるシチズンサイエンスに基づいた学術横断的社会的連携

日 時：平成30年7月28日（土）13:30～16:30

場 所：日本学術会議議堂（東京都港区）

参加申込不要・参加費無料

【基調講演】

「オープンな情報流通によって変容するシチズンサイエンスの可能性」

林 和弘

（文部科学省 科学技術・学術政策研究所 上席研究官）

「シチズンサイエンスは学術研究をどう変えるか」

中村征樹

（日本学術会議 若手アカデミー会員・連携会員，大阪大学全学教育推進機構 准教授）

【話題提供】 多様な学術分野におけるシチズンサイエンスの課題と可能性

「心理学におけるシチズンサイエンスの可能性」

高瀬堅吉（日本心理学会認定心理士の会運営委員会 委員長）

「ヒューマンインタフェース学におけるシチズンサイエンスの可能性」

福森 聡（日本ヒューマンインタフェース学会若手の会 代表）

「公衆衛生におけるシチズンサイエンスの可能性」

長谷田真帆（東京大学大学院医学系研究科 博士研究員）

シチズン
サイエンス

心理学

ヒューマン
インター
フェイス学

公衆
衛生学

公開シンポジウム

若手アカデミーが考えるシチズンサイエンスに基づいた学術横断的社会的連携

日 時：平成30年7月28日（土）13:30～16:30
場 所：日本学術会議議堂（東京都港区）
参加申込不要・参加費無料

【基調講演】
「オープンな情報流通によって変容するシチズンサイエンスの可能性」
林 和弘
（文部科学省 科学技術・学術政策研究所 上席研究官）
「シチズンサイエンスは学術研究をどう変えるか」
中村征樹
（日本学術会議 若手アカデミー会員・連携会員，大阪大学全学教育推進機構 准教授）


【話題提供】 多様な学術分野におけるシチズンサイエンスの課題と可能性
「心理学におけるシチズンサイエンスの可能性」
高瀬堅吉（日本心理学会認定心理士の会運営委員会 委員長）
「ヒューマンインタフェース学におけるシチズンサイエンスの可能性」
福森 聡（日本ヒューマンインタフェース学会若手の会 代表）
「公衆衛生におけるシチズンサイエンスの可能性」
長谷田真帆（東京大学大学院医学系研究科 博士研究員）

林 和弘（はやし かずひろ）
日本化学会学術情報部長を経て、学術雑誌の電子化をきっかけにオープンサイエンス政策に役立つ調査研究をー貫して行い、G7科学技術大臣会合の作業部会、内閣府の検討会、OECDの会合等において、その知見を国内外に生かす。

中村征樹（なかもら まさき）
東京大学大学院工学系研究科助手、文部科学省科学技術政策研究所研究官を経て、現職。科学技術と社会の関係の変容について、歴史的観点から研究してきた。サイエンスカフェなど、研究者と市民の対話を促す場のデザインともの普及にも携わる。

主 催：日本学術会議 若手アカデミー / ベーシオンに向けた社会連携分科会
共 催：日本学術会議 心理学・教育学委員会 社会のための心理学分科会
共 催：公益社団法人 日本心理学会
後 援：国立研究開発法人科学技術振興機構 科学技術社会論学会

【アクセス】
東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口
〒106-8555
東京都港区六本木 7-22-34



若手アカデミーを中心としたシチズンサイエンス運動の拡大

公開シンポジウム

若手アカデミーが考えるシチズンサイエンスに基づいた学術横断的社会連携

日時: 平成30年7月28日(土) 13:30~16:30
 場所: 日本学術会議副堂(東京御港区)
 参加申込不要・参加費無料

【基調講演】
 「オープンな情報流通によって変容するシチズンサイエンスの可能性」
 林和弘 (文部科学省 科学技術・学術政策研究所 上席研究官)

「シチズンサイエンスは学術研究をどう変えるか」
 中村征樹 (日本学術会議 若手アカデミー会員・連携会員, 大阪大学全学教育推進機構 准教授)

【話題提供】 多様な学術分野におけるシチズンサイエンスの課題と可能性
 「心理学におけるシチズンサイエンスの可能性」
 高瀬堅吉 (日本心理学会認定心理士の会運営委員会 委員長)

「ヒューマンインタフェース学におけるシチズンサイエンスの可能性」
 福森聡 (日本ヒューマンインタフェース学会若手の会 代表)

「公衆衛生におけるシチズンサイエンスの可能性」
 長谷田真帆 (東京大学大学院医学系研究科 博士研究員)

林和弘 (はやし かずひろ)

日本化学会学術情報部長を経て現職。学術雑誌の電子化をきっかけにオープンサイエンス政策に役立つ調査研究を一手しに行い、G7科学技術大臣会合の作業部会、内閣府の検討会、OECDの会合等において、その知見を国内外に生かす。

中村征樹 (なかもら まさき)

東京大学大学院工学系研究科助手。文部科学省科学技術政策研究所研究員を経て、現職。科学技術と社会の関係の変容について、歴史的観点から研究してきた。サイエンスカフェなど、研究者と市民の対話を促す場のデザインともの普及にも携わる。

主 催: 日本学術会議 若手アカデミーイノベーションに向けた社会連携分科会
 日本学術会議 心理学・教育学委員会 社会のための心理学分科会
 共 催: 公益社団法人 日本心理学会
 後 援: 国立研究開発法人 科学技術振興機構 科学技術社会論学会

【アクセス】
 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口
 〒106-8555
 東京都港区六本木 7-22-34

学術の動向 11 2018

科学と社会をつなぐ
 NOVEMBER 2018 VOLUME 23 NUMBER 11
 編集協力 日本学術会議

平成30年11月1日発行(毎月1回1日発行) 学術980円 購読単価11号 通巻額272号 ISSN 1340-5563

【特集1】
 若手アカデミーが考えるシチズンサイエンスに基づいた学術横断的社会連携
 高瀬堅吉/林和弘/中村征樹/福森聡/長谷田真帆

【特集2】
 「学術支援・研究職」の現状と課題—ジェンダー視点からの検討—
 海峯佳子・大沢真理/河野鏡子/宮浦千里/羽場久美子/廣森直子/清未愛砂



『学術の動向』2018年11月号



1 August 2018 Young Academy of Japan hosted symposium on Citizen Science

The Young Academy of Japan (YAJ) hosted a public symposium on 'Young Academy's Thoughts on Cross-disciplinary Social Collaboration Based on Citizen Science.' YAJ Chair and GYA member [Akihiro Kishimura](#) (Japan) gave an opening address and explained YAJ to the audience. GYA alumnus [Masaki Nakamura](#) (Japan) was one of the keynote speakers and talked about how citizen science could change academic research. Kenkichi Takase, the Secretary of YAJ, and other researchers gave a presentation on potentials of citizen science in their disciplines. The YAJ is planning to hold similar symposiums in different places in Japan so that citizen science can be discussed with wider audiences and possibly involve more Japanese citizens in science.



Posted in National Young Academies, News

Global Young Academy Website

シチズンサイエンスの社会課題解決への適用を検討

公開シンポジウム

地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化 ーシチズンサイエンスを通じた 地方課題解決への取り組みー(青森県)

公開シンポジウム

地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化
ーシチズンサイエンスを通じた
地方課題解決への取り組みー(青森県)



日時:平成30年12月1日(土)13:30~16:30
場所:健康未来イノベーションセンター
(弘前市本町 弘前大学本町キャンパス)
参加申し込み不要・参加費無料

市民が参画する新たな研究スタイル「シチズンサイエンス」を通じた、
地方課題の解決の可能性を探ります。

【基調講演】

「オープンな情報流通によって変容するシチズンサイエンスの可能性」
林 和弘(文部科学省科学技術・学術政策研究上席研究官)

「シチズンサイエンスは学術研究をどう変えるか」
中村 征樹(日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、大阪大学全学教育推進機構准教授)

【話題提供】

地方が抱える課題を解決するシチズンサイエンスの可能性
ー青森県での健康教育促進を通じた短命県返上への取り組みー

「地域課題解決を通じて新産業創出をめざす弘前大学COIの基本戦略」
村下公一(弘前大学COI研究推進機構教授、弘前大学COI副拠点長(戦略統括))

「市民と課題に向きあう、健康リーダー育成」
沢田かほり(弘前大学医学研究科助教)

「市民と共に創る-地域食材の良さを生かした食品開発-」
前多隼人(弘前大学農学生命科学部准教授)

総合司会:高瀬堅吉(日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事、自治医科大学医学研究科教授)

シンポジウム終了後、同じ会場において、サイエンスカフェ「シチズンサイエンスを通じた
地方課題解決への取り組み」を開催します(16:30~18:00)。
ゲスト:高瀬堅吉 コーディネーター:中村征樹
お茶を飲みながら、お気軽にご参加ください!

主催:日本学術会議若手アカデミー
共催:弘前大学COI研究推進機構
後援:国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター
お問い合わせ:加藤千尋(弘前大学農学生命科学部助教、若手アカデミー会員)
TEL 0172-39-3748(弘前大学農学生命科学部・代表)



【基調講演】

「オープンな情報流通によって変容するシチズンサイエンスの可能性」

林 和弘

(文部科学省 科学技術・学術政策研究所 上席研究官)

「シチズンサイエンスは学術研究をどう変えるか」

中村征樹

(日本学術会議 若手アカデミー会員・連携会員, 大阪大学全学教育推進機構 准教授)

【話題提供】 地方が抱える課題を解決するシチズンサイエンスの可能性 ー青森県での健康教育促進を通じた短命県返上への取り組みー

「地域課題解決を通じて新産業創出をめざす弘前大学COIの基本戦略」

村下公一(弘前大学COI研究推進機構教授, 弘前大学COI副拠点長(戦略統括))

「市民と課題に向きあう、健康リーダー育成」

沢田かほり(弘前大学医学研究科 助教)

「市民と共に創る-地域食材の良さを生かした食品開発-」

前多隼人(弘前大学農学生命科学部 准教授)

短命県返上

シチズンサイエンス in 産官学連携 / シチズンサイエンス × サイエンスカフェ



地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化
シチズンサイエンスを通じた地方課題解決
～市民と科学者が“つながる場”について考える～

【基調講演】

「オープンな情報流通によって変容するシチズンサイエンスの可能性」
林 和弘
(文部科学省 科学技術・学術政策研究所 上席研究官)

「シチズンサイエンスは学術研究をどう変えるか」
中村征樹
(日本学術会議 若手アカデミー会員・連携会員, 大阪大学全学教育推進機構 准教授)

【話題提供】 地方を舞台とするシチズンサイエンスの可能性 －福岡での取り組みを中心として－

「社会課題解決に向けた福岡市の新たな挑戦：実証実験フルサポートによる先端技術の
社会実装促進とSociety 5.0の実現」
福岡市総務企画局

「福岡ヘルス・ラボを中心とした産官学連携：市民参加型共創的イノベーションの仕組みづくり」
福岡市保健福祉局

「地域におけるサイエンスカフェ活動から見える市民巻き込み型学術の可能性」
吉岡瑞樹 (九州大学大学院理学研究院准教授, サイエンスカフェ@ふくおか運営者)

「サイエンスパブ in 福岡：市民と学者の“ガチだが気軽な対話”から生まれるもの」
山岡均 (国立天文台天文情報センター)

産官学
連携

サイエンス
カフェ

地方における若手科学者を中心とした学術活動の活性化
シチズンサイエンスを通じた地方課題解決
～市民と科学者が“つながる場”について考える～



日時：3月2日(土) 第一部 13:00～17:00
第二部 17:30～19:00

場所：(第一部) 電気ビル本館地下2階・7号会議室
(第二部) 電気ビル共創館3階・BIZCOLI
*地下鉄七隈線・渡辺通り駅から徒歩

参加費：無料 定員：80名(事前参加申し込み推奨)

市民と向き合うことで地域課題の解決に取り組む行政や、地域で長く科学コミュニケーション活動に取り組む方々を交えて、市民を巻き込む新しい学術のあり方について議論し、地域だからこそ生きてくる市民と学者の共創について考えます。

第一部 (講演会 & 公開討論) (基調講演、話題提供後に討論を予定)

【基調講演】

「オープンな情報流通によって変容するシチズンサイエンスの可能性」
林 和弘 (文部科学省科学技術・学術政策研究所 上席研究官)
「シチズンサイエンスは学術研究をどう変えるか」
中村征樹 (日本学術会議連携会員、大阪大学全学教育推進機構 准教授)

参加申し込みは
こちらから



【話題提供】

地方を舞台とするシチズンサイエンスの可能性 –福岡での取り組みを中心として–
「社会課題解決に向けた福岡市の新たな挑戦：実証実験フルサポートによる先端技術の社会実装促進とSociety 5.0の実現(予定)」福岡市総務企画局
「福岡ヘルス・ラボを中心とした産官学連携：市民参加型共創的イノベーションの仕組みづくり(予定)」福岡市保健福祉局
「地域におけるサイエンスカフェ活動から見える市民巻き込み型学術の可能性」
吉岡瑞樹 (九州大学大学院理学研究院 准教授, サイエンスカフェ@ふくおか 運営者)
「サイエンスパブ in 福岡：市民と学者の“ガチだが気軽な対話”から生まれるもの」
山岡均 (国立天文台天文情報センター)

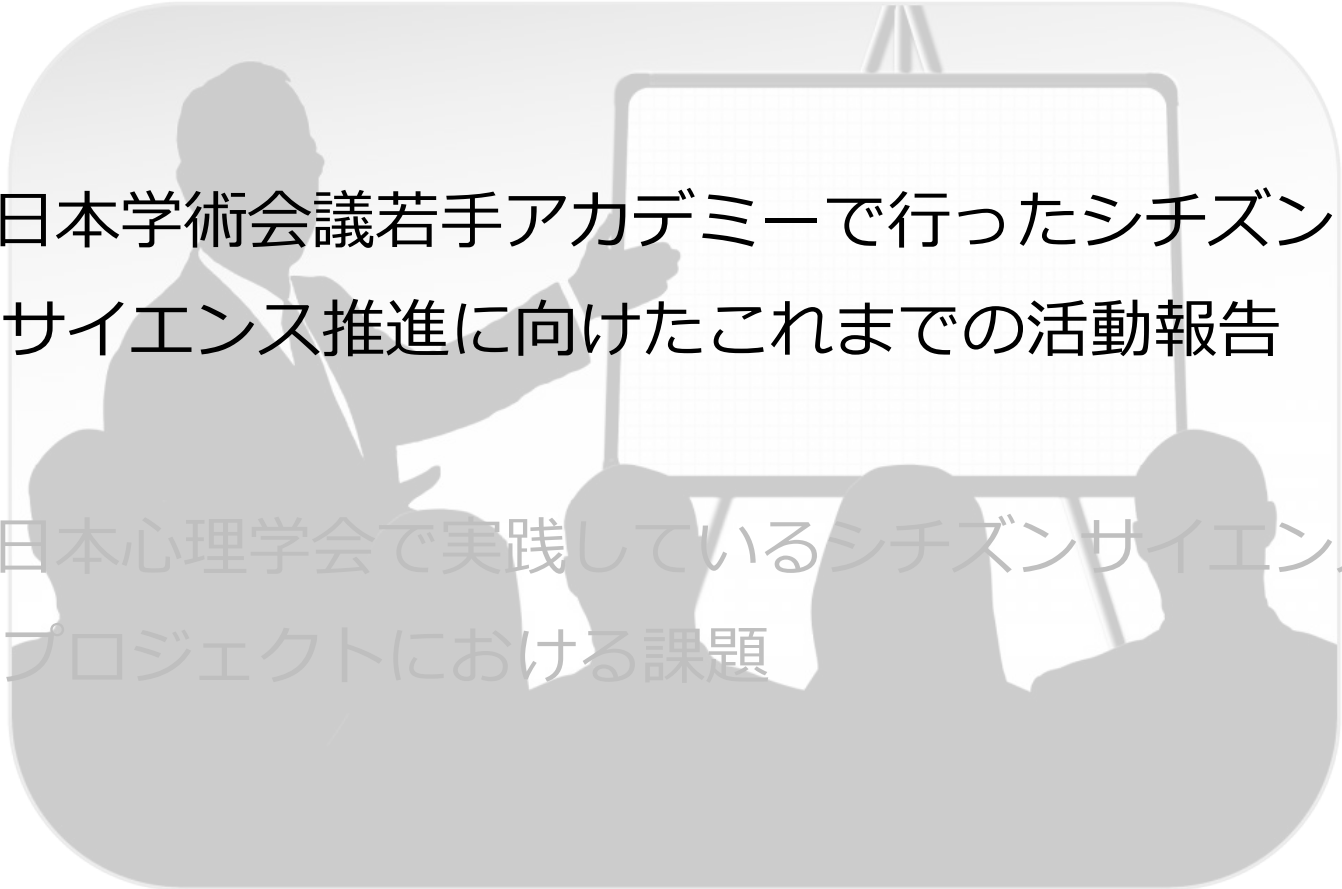
第二部 (サイエンスカフェ) (定員40名: 要・事前申し込み、別紙参照)

【話題提供】「身体も心！～心理学のこれから～」山田祐樹 (九州大学 准教授)
合わせてサイエンスコミュニケーションのこれからについても議論する予定です。

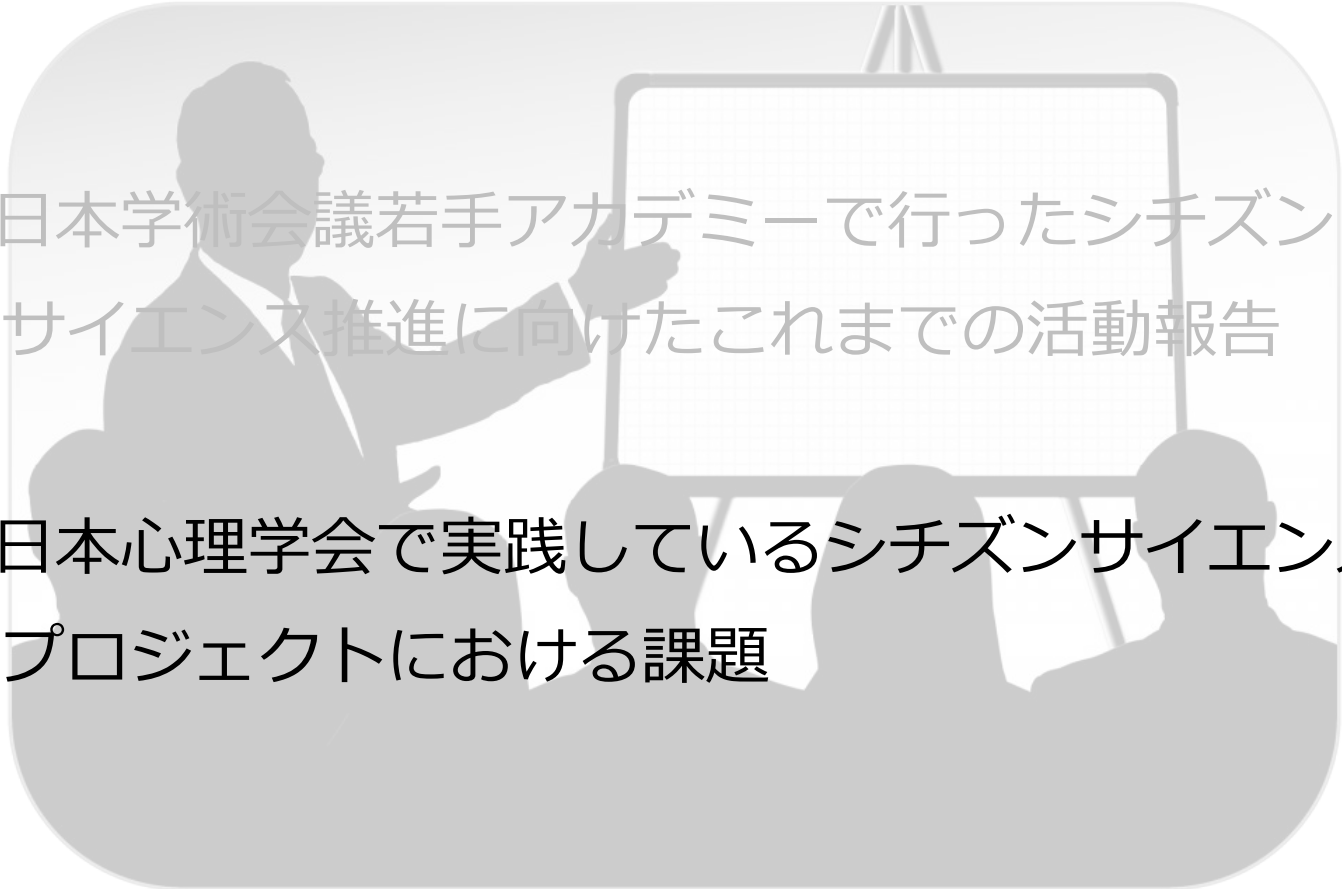


主催：日本学術会議若手アカデミー
共催：九州大学科学技術イノベーション政策教育研究センター (CSTIPS)、九州大学分子システム科学センター (CMS)、公益財団法人九州経済調査協会BIZCOLI
後援：国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)、福岡市、日本認知心理学会心理学の信頼性研究部会、日本心理学会サイエンスコミュニケーション研究会
お問い合わせ：岸村颯広 (日本学術会議連携会員/若手アカデミー代表、九州大学大学院工学研究院/CMS) TEL: 092-802-2851

Today's
topics

- 
- ◆ 日本学術会議若手アカデミーで行ったシチズンサイエンス推進に向けたこれまでの活動報告
 - ◆ 日本心理学会で実践しているシチズンサイエンスプロジェクトにおける課題

Today's topics

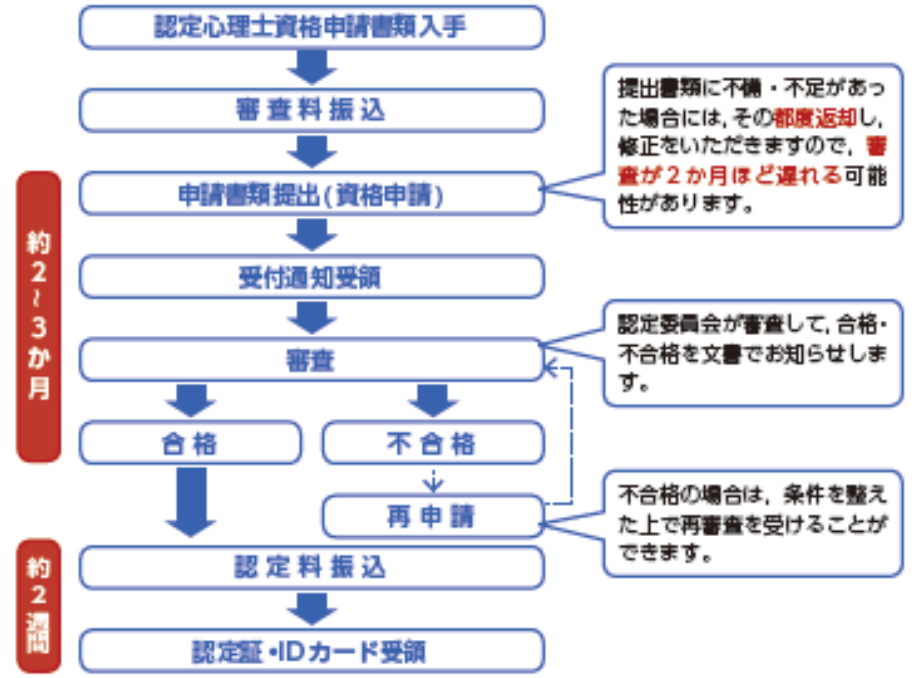
- 
- ◆ 日本学術会議若手アカデミーで行ったシチズンサイエンス推進に向けたこれまでの活動報告
 - ◆ 日本心理学会で実践しているシチズンサイエンスプロジェクトにおける課題

日本心理学会認定心理士： 人の行動・心理を対象とした定量調査、定性調査が実施可能なシチズンサイコロジスト

認定心理士資格の基礎条件

- 1 四年制大学を卒業して学士の学位を取得もしくは大学院修士課程(博士課程前期課程)を修了して修士の学位を取得
- 2 16歳以降通算2年以上日本に滞在した経験
- 3 認定心理士認定資格細則が指定する心理学関係の所定の単位を修得

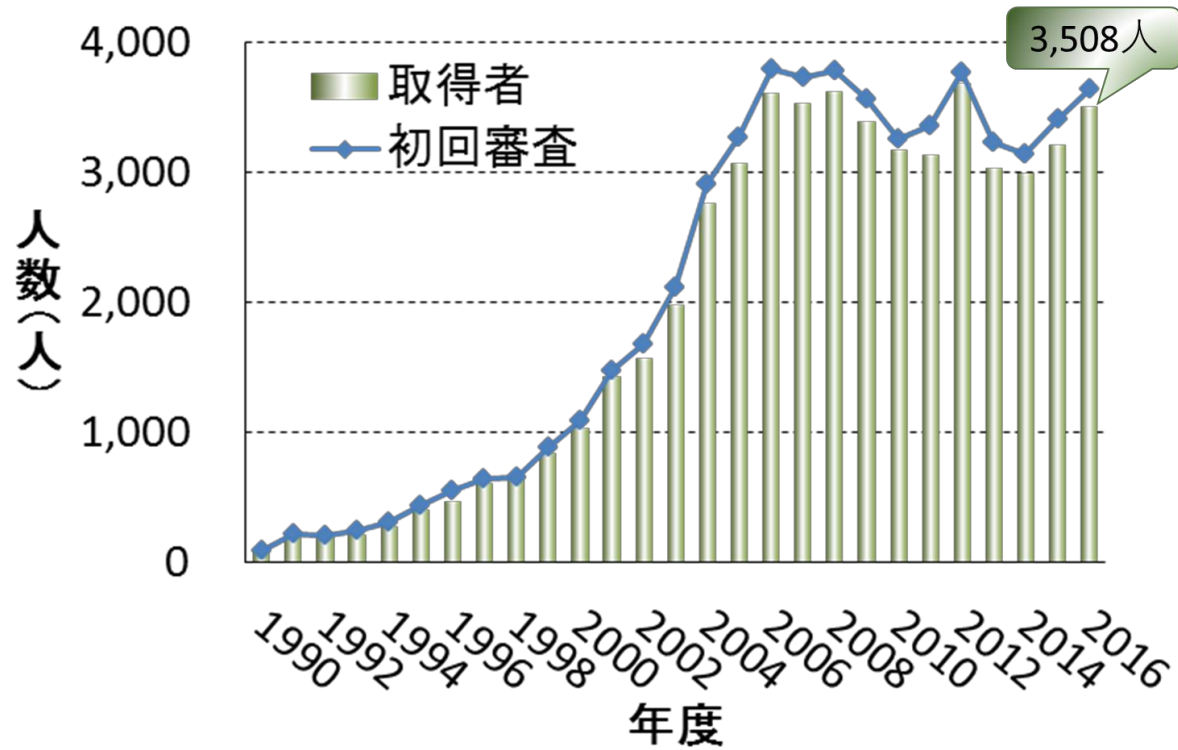
認定心理士資格申請の流れ



日本心理学会では、心理学の専門家として仕事をするために必要な、最小限の標準的基礎学力と技能を修得している人材を審査し、「認定心理士」として認定する活動を展開している。認定心理士は、心理学系の大学を卒業しており、人間(個人・集団)を測る技能としての能動的対人測定法を備え、問題発見と調査立案力を持つ人材である。人を対象としたデータに対する科学的思考法に裏付けられた客観的な分析手法に長けており、得られたデータを論理的にまとめ、表現する力を有している。

シチズンサイコロジスト × シチズンサイエンス = 質の高いビッグデータ取得活動

「認定心理士」取得者数の推移



<https://psych.or.jp/authorization/citizen/>

シチズンサイエンスプロジェクトHP

公益社団法人 日本心理学会
The Japanese Psychological Association

心理学会とは 入会案内 大会・行事案内 学会員 助成・公費案内 認定心理士資格申請

日本心理学会 会員の方へ | 認定心理士の方へ | 心理学に興味のある方へ | 公認心理師について

HOME > 認定心理士の方 > シチズン・サイエンスプロジェクト

認定心理士の方

シチズン・サイエンスプロジェクト

シチズン・サイエンスとは、一般の方が行う研究活動のことです。シチズン・サイエンスは世界的に広がりを見せており、研究を職業とする科学者や公的な研究機関と協働して行われることもあります。日本心理学会は、認定心理士の皆様と研究を行い、これからの心理学を共に創り上げることを目的に、シチズン・サイエンスプロジェクトを始めました。

以下の「プロジェクト名」をクリックすると、各研究プロジェクトの背景・目的を読むことができます。「方法」をクリックすると、その研究プロジェクトの実施方法の詳細を閲覧することができます。研究プロジェクトに参加し、データを取得したら「結果」をクリックして、皆様が得たデータを入力してください。得られた結果は日本心理学会が解析し、論文発表、学会発表を通じて公表します。

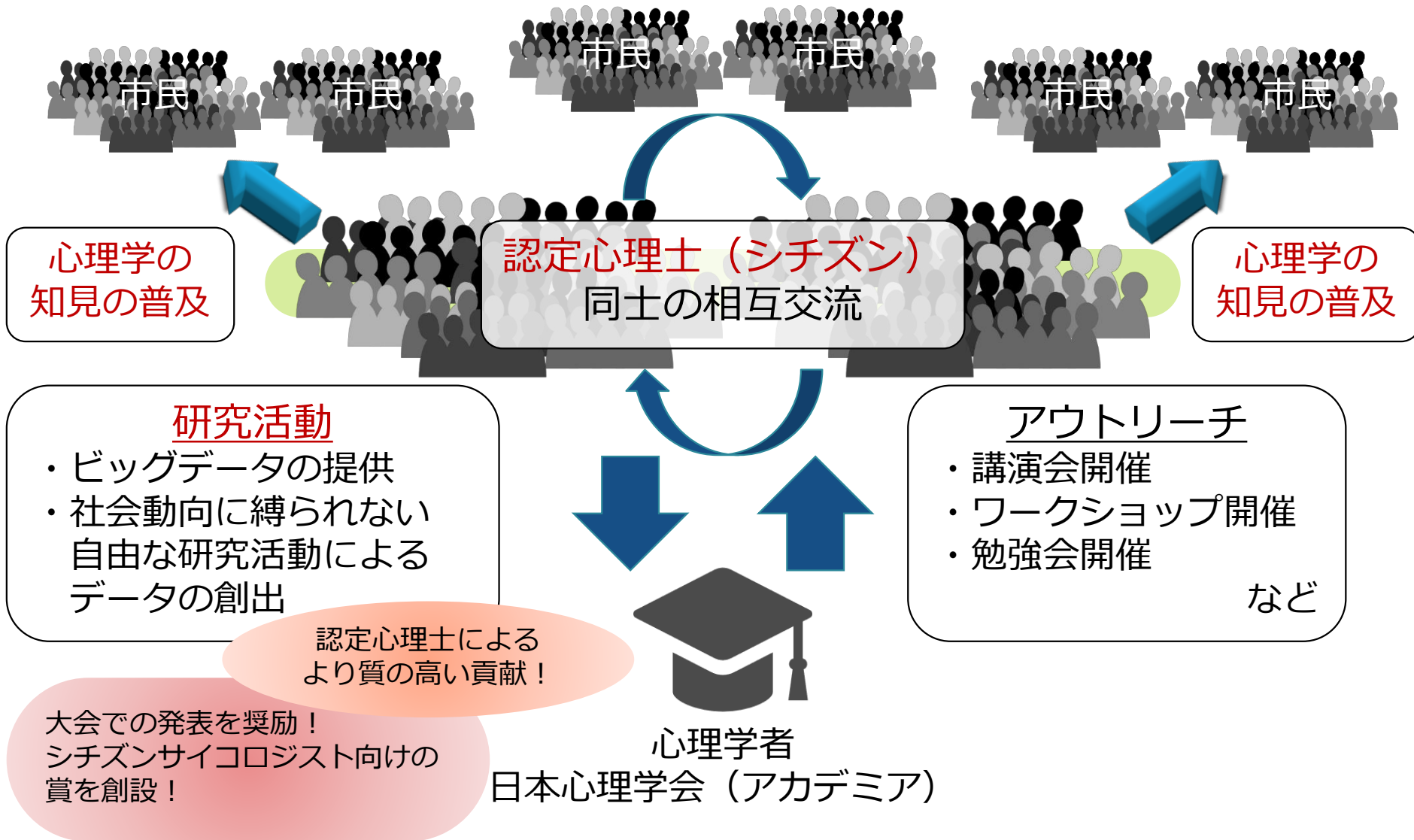
プロジェクト名	方法	結果
潜在的連合テストによる「ジェンダー」・「科学」ステレオタイプの測定	実験方法の詳細はこちら	結果の入力はこちら ※認定心理士の方のみ

※実験プログラムの操作や、内容に関する問合せにはお答えできません。何卒ご了承ください。

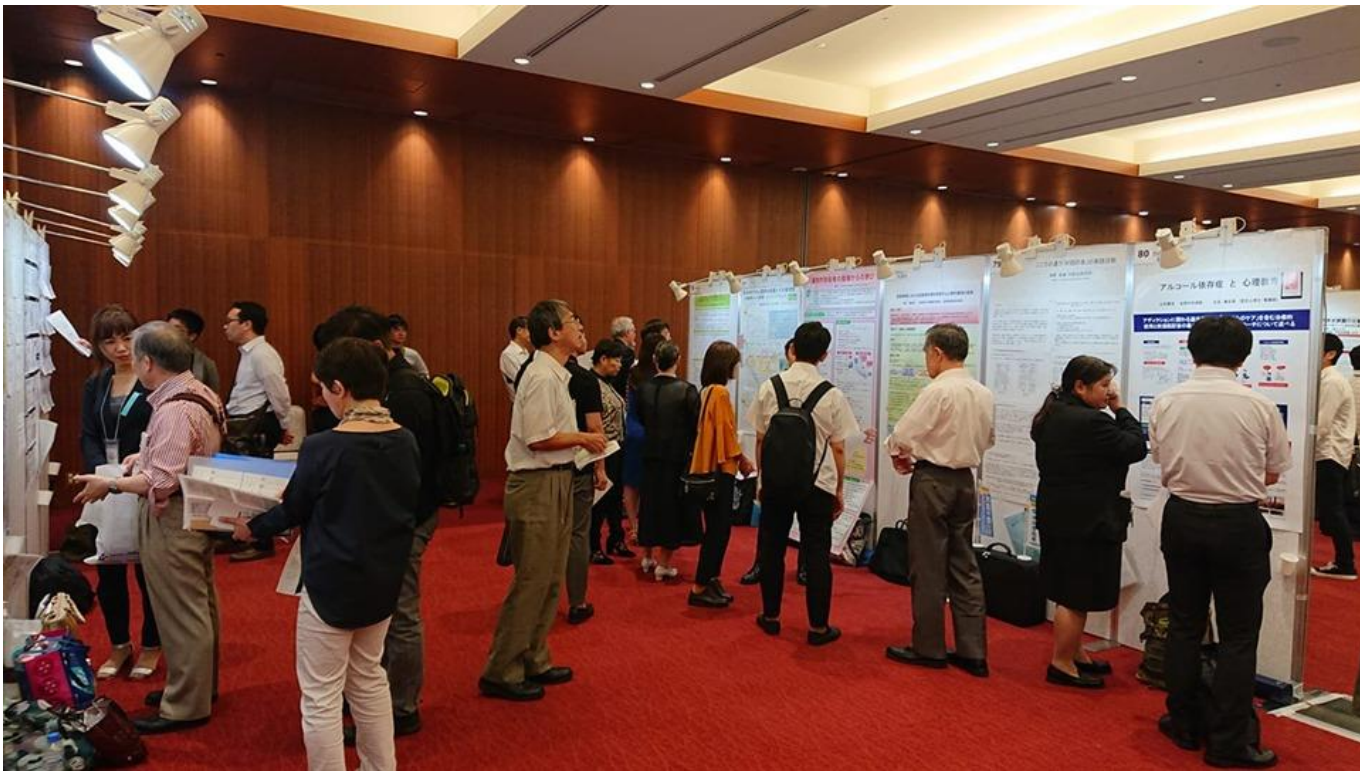
公益社団法人 日本心理学会
The Japanese Psychological Association

日本心理学会では、約60,000人の認定心理士が参画可能なシチズン・サイエンスプロジェクトを開始し、即時にビッグデータを取得可能なシステムを構築した。認定心理士は各々が興味を示すプロジェクトに自由に参加し、モチベーション-ドリブンの調査を展開可能である。

日本心理学会におけるシチズンサイエンスの展開




日本心理学会では市民の認定心理士が相互交流を促進し、心理学の知見の普及、研究者主導型プロジェクトへのビッグデータの提供、認定心理士による自由な研究活動を行い、質の高いシチズンサイエンスを展開している。



第1回 社会連携セクション
2019/9/12 日本心理学会第83回大会内にて

シチズン・サイコロジスト奨励賞

Citizen Psychologist Incentive Award 2019



第1回シチズン・サイコロジスト奨励賞
人々の心の健康と福祉の増進に寄与する認定心理士を顕彰

募集期間
2018
11/1(木)
~2019
1/9(水)

対象者	授賞等
以下の条件をすべて満たす個人 または団体 ・日本心理学会会員 ・認定心理士有資格者 ・高等教育機関、研究機関に 所属しない者。	・件数：とくに定めない。 ・表彰：賞状・賞金（授賞式 参加のための旅費を 含み）10万円と記念 品を贈呈する。

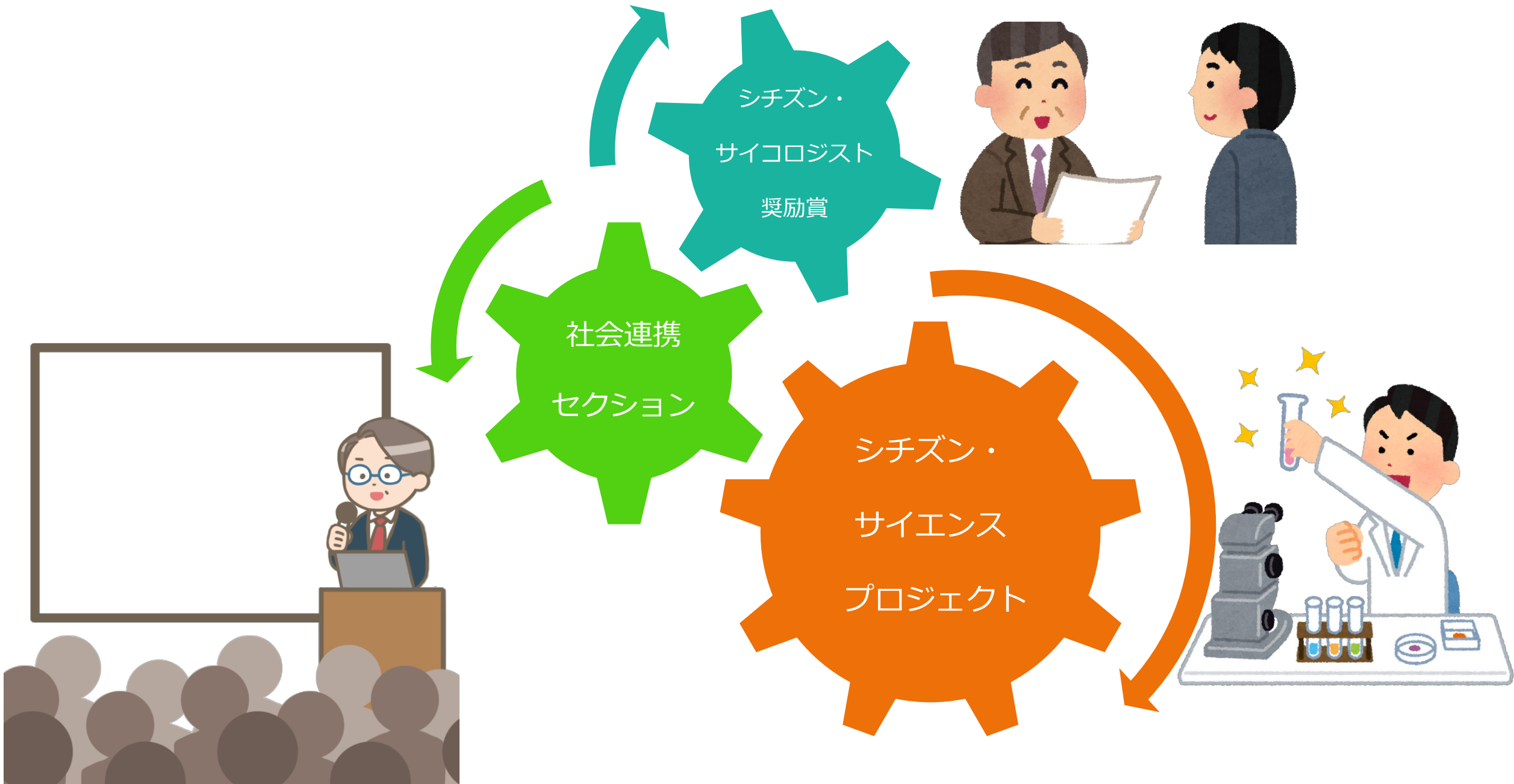
応募方法は自己による応募と他者による推薦があります。
詳しくは、HP (<https://psych.or.jp/prize/citizen/>) をご覧ください。

公益社団法人日本心理学会
The Japanese Psychological Association

公益社団法人日本心理学会 事務局
所在地：〒113-0033 東京都文京区本郷5-23-13 田村ビル内
TEL：03-3814-3953 FAX：03-3814-3954

第1回 シチズン・サイコロジスト奨励賞

認定心理士（シチズン・サイコロジスト）との共創的サイエンスの実装



認定心理士（シチズン・サイコロジスト）による**共創的心理学**が解決する課題

学術の課題

ex. 再現性問題

社会の課題

ex. 超高齢社会
防災
地球温暖化

職業心理学者（サイコロジスト）による**競争的心理学**では解決できない課題

アカデミアでは生み出すことのできない研究成果 ～ビッグデータが生む再現性を備えた研究成果～

RESEARCH ARTICLE SUMMARY

PSYCHOLOGY

Estimating the reproducibility of psychological science

Open Science Collaboration*

INTRODUCTION: Reproducibility is a defining feature of science, but the extent to which it characterizes current research is unknown. Scientific claims should not gain credence because of the status or authority of their originator but by the replicability of their supporting evidence. Even research of exemplary quality may have irreproducible empirical findings because of random or systematic error.

RATIONALE: There is concern about the rate and predictors of reproducibility, but limited evidence. Potentially problematic practices include selective reporting, selective analysis, and insufficient specification of the conditions necessary or sufficient to obtain the results. Direct replication is the attempt to recreate the conditions believed sufficient for obtaining a pre-

viously observed finding and is the means of establishing reproducibility of a finding with new data. We conducted a large-scale, collaborative effort to obtain an initial estimate of the reproducibility of psychological science.

RESULTS: We conducted replications of 100 experimental and correlational studies published in three psychology journals using high-powered designs and original materials when available. There is no single standard for evaluating replication success. Here, we evaluated reproducibility using significance and *P* values, effect sizes, subjective assessments of replication teams, and meta-analysis of effect sizes. The mean effect size (r) of the replication effects ($M_r = 0.197$, $SD = 0.257$) was half the magnitude of the mean effect size of the original effects ($M_r = 0.403$, $SD = 0.188$), representing a



新しい仕事をして論文を書かないとアカデミアでは生き残れないため、大量のデータをサンプリングして、それを繰り返して再現性を確かめる仕事が行いづらい現状がある

根深い再現性問題～事前審査つき事前登録方式の失敗～

IN DEPTH | REPRODUCIBILITY

Psychology's reproducibility solution fails first test

David Adam
+ See all authors and affiliations

Science 31 May 2019:
Vol. 364, Issue 6443, pp. 813
DOI: 10.1126/science.364.6443.813

Article Info & Metrics eLetters PDF

You are currently viewing the summary. [View Full Text](#)

Summary

As part of an effort to lessen psychology's reproducibility problems, the field picked up the process of preregistration from clinical research, where it has been the norm for more than a decade. By setting out, for example, the number of volunteers that will be recruited and the criteria that will be used to analyze the data, preregistration is intended to make research more transparent and reduce both the temptation to fish for significant results and the opportunity for bias. But psychology researchers are failing to follow their own preregistered plans.



認定心理士（シチズン・サイコロジスト）による共創的心理学が解決する課題

学術の課題

ex. 再現性問題

社会の課題

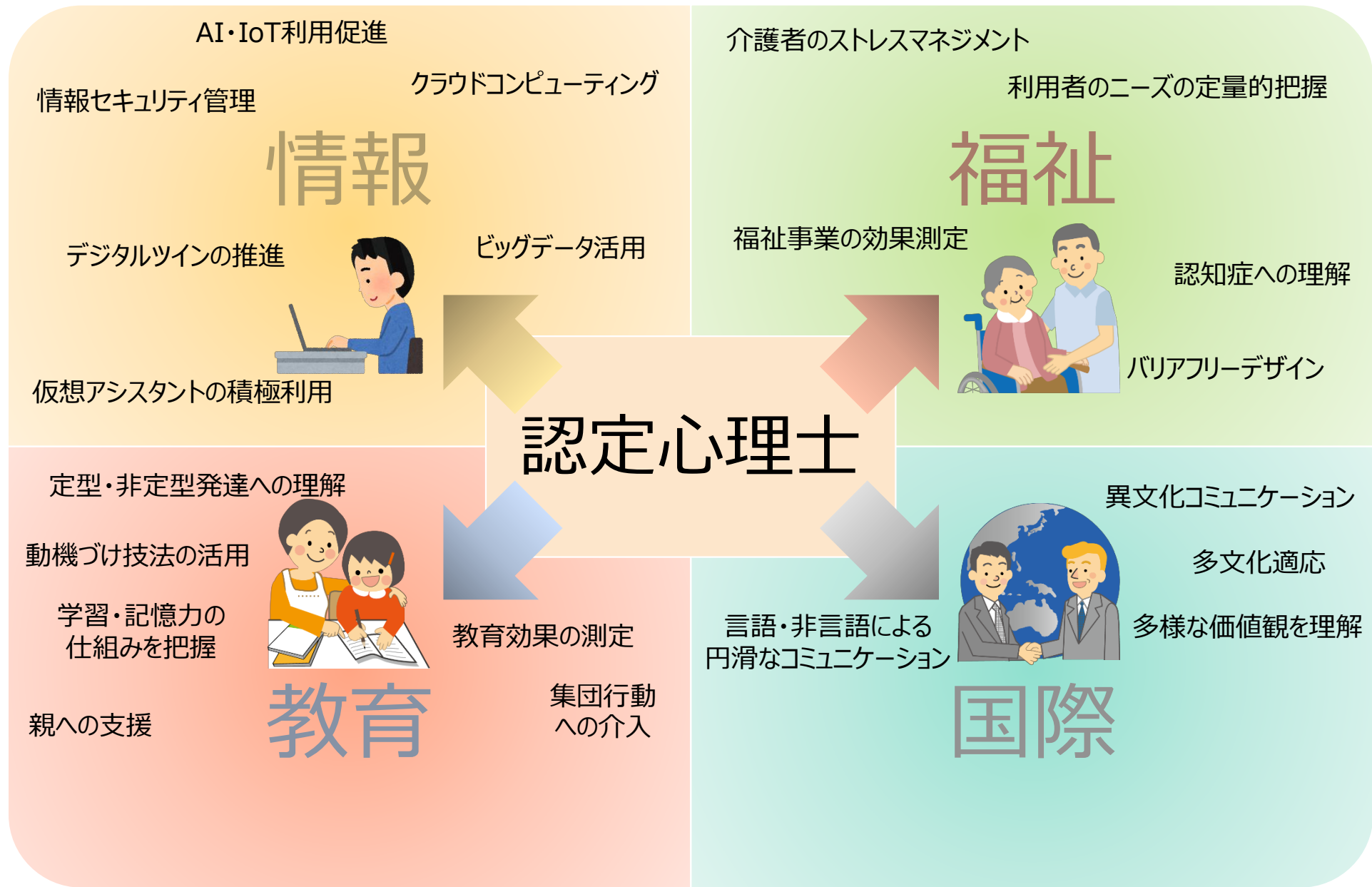
ex. 超高齢社会
防災
地球温暖化

職業心理学者（サイコロジスト）による競争的心理学では解決できない課題

共創的心理学が挑戦する社会課題（防災）

～調べることは知ること。正常性バイアスと戦う～





認定心理士は**情報・福祉・教育・国際**等への分野に高い関心を持ち、それにかかわる様々な人々への調査が可能である。



日 時 : 2019年 9月13日 (金)
16 : 00-17 : 30

場 所 : Camping Kitchen 立命館
大阪いばらきキャンパス
(A棟南ウイング 1階)

対 象 : 認定心理士有資格者

参加費 : 無料 ※先着20名
8月15日 (木) 申し込み〆切

SCIENCE Café

申し込み : 件名「9.13 サイエンスカフェ参加希望」とし、
jpa-ninnokai-event@psych.or.jp に、氏名、メールアドレス、
認定番号を記入してお申し込みください。

日本心理学会企画シンポジウム「Society 5.0を推進するシチズン・サイエンス -シチズン・サイコロジストによる社会課題解決を目指して-」(9/13 Fri. 13:20-15:20) 終了後にサイエンスカフェを開催します。
飲み物 (アルコール・ソフトドリンク) やアペリティブとともに、社会が抱える課題について心理学ができることを、認定心理士の皆さんと心理学者とで語り合しましょう。



ファシリテーター
中村 征樹 (大阪大学)



ゲスト
高瀬 堅吉 (自治医科大学・認定心理士の会運営委員会委員長)



ゲスト
渡邊 伸行 (金沢工業大学・認定心理士の会運営委員会副委員長)

認定心理士 × 心理学者がともに過ごす
贅沢なヒトトキ

日本心理学会

×

サイエンスカフェ

学協会単位でのサイエンスカフェの実施は、各学協会が扱う学問分野に興味を持つシチズンサイエンティストを集客しやすいため、大学単位で開催するサイエンスカフェと比較して、広報に係る費用とその波及効果の点で優れている。

実践から見えてきた

Citizen Scienceの

課題

- ◆ シチズンサイエンティストを動機づける施策が十分ではない（サイエンスカフェの実施、サイエンスコミュニケーターの設置）
- ◆ シチズンサイエンティストの研究倫理の基盤整備が十分ではない（倫理委員会、倫理規定の整備）
- ◆ アカデミアとシチズンを橋渡し、双方向性のあるシチズンサイエンスを推進するための基盤が学協会で十分に整備されていない（公開講座の開催、社会連携委員会の設置）
- ◆ シチズンサイエンティストの活動を支援する研究資金制度の確立および情報のインフラ整備が十分ではない
- ◆ シチズンサイエンティストが参画可能な学問領域が明確化されていない
- ◆ シチズンサイエンス推進の要となる公共財としての国立大学の利活用の様態について



市民とともに研究・調査



社会の課題を解決



市民の科学リテラシー向上

Citizen Scienceの

特徴・効用

(リテラシー向上)

Citizen Scienceの

効用

(新たなキャリアパス)

認定心理士って、 すごいよね！！！！

、、、と社会に認知してもらえる



就職

開業

に、つながるといいと思っています

Sustainable System for Citizen Science



企業／官公庁



依頼



提供



公益社団法人日本心理学会
The Japanese Psychological Association
常務理事会
認定心理士の会運営委員会

認定心理士の方

シチズン・サイエンスプロジェクト

シチズン・サイエンスとは、一般の方が行う研究活動のことです。シチズン・サイエンスは世界的に広がりを見せており、研究を職業とする科学者や公的・学術機関と協働して行われることもあります。日本心理学会は、認定心理士の協働と研究を行い、これからの心理学を更に進めようとする目的に、シチズン・サイエンスプロジェクトを始めた。

以下の「プロジェクト名」をクリックすると、各研究プロジェクトの概要・目的を知ることができます。「方法」をクリックすると、その研究プロジェクトの実施方法の詳細を知ることができます。研究プロジェクトに参加し、データを取得したら「結果」をクリックして、管理が確たデータを入力してください。得られた結果は日本心理学会が解析し、論文発表、学術発表を通じて公表します。

プロジェクト名	方法	結果
現在の連合テストによる「シェンダー」・「科宇」ステレオタイプ	実験方法の詳細はこちら	結果の入力はこちら
※実験プログラムの条件や、内容に関する問合せにはお答えできません。何卒ご了承ください。		※認定心理士の方のみ

依頼



約60000人の
認定心理士



採取



企業または官公庁からの依頼を受け、日本心理学会認定心理士の会運営委員会、常務理事会で審議し、調査内容をシチズン・サイエンスプロジェクトHPに掲載する。その後、認定心理士がデータを採取し、最終的に得られたデータを企業に提供する。データのクオリティコントロールは認定心理士の会運営委員会で行う。データ活用の際し、匿名化を学会で行うため、利用制限は原則設けない。

シチズンサイエンスの実例とこれからの可能性

—日本心理学会におけるシチズン・サイエンスプロジェクトを通じて

ご清聴ありがとうございました。